



COLLEGE WOMEN'S ASSOCIATION OF JAPAN

CWAJ

ANNUAL REPORT
2018-2019CELEBRATING
70 YEARS OF CWAJ70th
Anniversary
1949-2019
CWAJ

MARCH 2019

会長からのメッセージ

CWAJ は今年 2019 年に設立 70 周年を迎えることができました。これも一重に、長いあいだ私共の活動を支えてくださいました皆様方のご理解とご協力の賜物と、会員一同篤く感謝申し上げます。

CWAJ の活動は戦後まもなくの 1949 年、数名の日米女性の善意と友情から始まりました。会の目的は、ドル払いの渡航費を工面できずにいた米国留学を志す日本人留学生への渡航費援助でした。その後の世界経済や社会情勢の変化に対応して CWAJ の活動も大きく発展し、1972 年には時代に先駆けて、世界で活躍できる女性リーダーを育てることを目標に、女性限定の給付型奨学金制度を創設しました。現在では海外留学する日本女性、日本で学ぶ外国人女性、視覚障害学生、福島看護学生など、多様な環境の学生に奨学金を支給するまでになりました。創立以来昨年までに、850 名の学生に総額 9 億 8 千 5 百万円の CWAJ 奨学金が支給されています。

奨学金プログラムの資金を募りつつ若い版画家を支援するという目的で 1956 年来毎年開催されている CWAJ 現代版画展は、代官山ヒルサイドフォーラムで 2 回目の開催となり、国内外から千名を超える来場

者を迎えました。版画展の売上の純益と皆様からの寄付金は、全額が CWAJ 奨学金プログラムに充てられています。

CWAJ は他にも視覚障害者向けの画期的な英語プログラムをはじめ、地域へ向けてさまざまな教育・文化プログラムを提供しています。現在では約 25 カ国の女性約 400 人の会員が、互いの文化への理解を深め友情を育みながら、質の高い教育支援を目指してボランティア活動に従事しています。

CWAJ にとって 70 周年記念の年は、過去の歴史を振り返るだけでなく、これからの未来を真摯に見据えるべき時だと考えています。70 年の間にはさまざまな難しい局面に遭遇しましたが、CWAJ の活動趣旨と理念、会員の社会貢献への強い志は常に変わることなく、時代のニーズに合った質の高い教育を推進する活動を展開しつつ、前進を続けてきました。今後も先駆者の足跡から学ぶとともに、次世代につながる有意義な活動を目指して歩みを続けていきます。

CWAJ の大きな課題のひとつは、社会での認知度を高めることです。2018 年にはまずそのために、ホームページを一新しました。デジタル社会への対応と若い年代に向けた発信に注力していく中で、英語のオ

ンラインニュース "In Japan" のビデオシリーズ "Women at Work" の第 1 弾で、CWAJ が日本女性の活躍の代表例として取り上げられ、2018 年 11 月にネット配信されたのは、大変嬉しいことでした。

70 周年を迎えてさまざまな記念イベントを企画していますが、そのキックオフとなるのは国際婦人デーの 3 月 8 日に国際文化会館で開催される公開シンポジウム『あなたの力が何かを変えるー女性たちから学ぶ多様な生き方ー』です。第一線で活躍する 4 人の女性リーダーをパネリストに迎え、社会参画、質の高い教育、女性のリーダーシップのあり方等を考える催しです。CWAJ の活動を多くの参加者に理解していただき、各界の女性リーダーとのネットワークを広げるとは、CWAJ にとっても有意義な機会となるでしょう。シンポジウムを開催するにあたり、一般社団法人東京倶楽部様より助成をいただきました。ここに深く謝意を表します。

誇るべき歴史を持つ素晴らしい団体の 70 周年となる記念の年に会長を務めさせていただき、大変光栄に存じます。今後とも CWAJ の活動にお力添えいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

CWAJ 会長 大島令子

CWAJ70 周年記念ディナー

2019 年 5 月 17 日 (金)
ホテルオークラ アスコットホール
レセプション 5:30-6:30pm
ディナー 6:30-9:00pm

2019 年 CWAJ 奨学生を紹介し、国内外の会員とこれまで CWAJ を支援してくださった方々と共に 70 周年を祝います。ライブオークションやエンタテイメントもお楽しみください。

第 63 回 CWAJ 現代版画展

2019 年 10 月 23 日 (水) - 10 月 27 日 (日)
ヒルサイドフォーラム (代官山 ヒルサイドテラス F 棟)
今年も光溢れるヒルサイドフォーラムで、5 日間の開催です。お誘い合わせの上、ぜひお出かけください。

神戸展

2019 年 11 月 7 日 (木) - 11 月 10 日 (日)
神戸倶楽部 (神戸市北野)
第 63 回版画展および 70 周年記念展から
選りすぐった作品を展示します。

CWAJ70 周年記念版画展

Wonder Women!
一創造力あふれる女性版画家たちー

大坂秩加、山田彩加、斉藤里香、
土屋美沙、若木くるみ 他

2019 年 10 月 16 日 (火) - 11 月 4 日 (月)
フレデリック・ハリス・ギャラリー
東京アメリカンクラブ B1 (港区麻布台)

本展とはひと味違うパワフルな作品を集めました。
女性作家の底力をご覧ください。

第62回 CWAJ 現代版画展

第62回 CWAJ 現代版画展は、2018年10月31日から11月4日まで、前年に引き続き代官山のヒルサイドフォーラムにて催されました。東京アメリカクラブで同時開催した併設展の作品の一部を代官山でも展示したため、298点もの見ごたえある版画を集めた大規模な展覧会になりました。会場は昨年の盛況をさらに上回り、1000人を超えるお客様で連日にぎわいました。



例年好評のガイドツアーは、日本語、英語、フランス語にスウェーデン語も加わり、多くのお客様が版画の技法や作品の解説に熱心に耳を傾けていました。



今回版画展カタログの表紙に選ばれた長谷川友紀さんには、サイン会に何度も協力いただきました。長谷川さんのさわやかなリトグラフ作品を使ったスカーフは、会期中に完売する人気でした。

CWAJ が長年続けている「ハンズ・オン・アート」(視覚障害者のためのアート)プログラム。今回は6作品をもとに立体コピーを製作し、ボランティアの説明を聞きながら手で触れて楽しんでいただきました。



また尾崎ユタカさんと井関洋さんによる版画制作デモンストレーションも、好評を博しました。

13年目を迎えたヤング・プリント・メーカー(YPA)賞は、若い版画家を応援する試みです。2018年の受賞者西村涼さんと受賞3年目を迎えた増田奈緒さんに加えて、特別企画として過去に受賞者6名の作品も展示され、エネルギーのほとばしるコーナーとなりました。

東京アメリカクラブ、フレッドリック・ハリス・ギャラリーで開かれた併設展のタイトルは、『懐かしさを訪ねて』。長い歴史をもつCWAJ 版画展のカタログの表紙を飾り、現在も版画家として活躍中の作家30名にお願いして、比較的小さな作品を集めて展示しました。

● アート&グルメ・ラッフル

第62回CWAJ版画展に合わせた2018年のCWAJラッフルは、アートとグルメをテーマに大成功を収めました。特賞の篠田桃紅氏からご寄贈いただいたリトグラフに加え、門坂流氏など物故作家のご遺族から寄贈された作品や、ラビアーツの額装券、マリーローランサン美術館をはじめ美術館のグッズや入館券、阿部出版の美術書など、アートにちなんだ賞品が人気を集めました。グルメではラ・ロシエル、シェ・草間、NOBU TOKYOなど多くの方々のご協力をいただき、版画展会場を訪れたお客様もつぎつぎ足をとめてラッフル券を買っていただきました。ラッフル券の売上はすべてCWAJ奨学金に充てられます。

2018年 CWAJ 現代版画展賞

1名 賞金 10万円
金 昭希「Way home II」
 審査員特別賞 2名
生田 宏司「鏡・X」
榊原 慶「挟間の森」

2019年度 CWAJ ヤング・プリント・メーカー賞 (YPA 賞)

1名 賞金 50万円
山田 ひかる
 武蔵野美術大学大学院2年(2019年3月卒業) 賞金は、卒業後実家の一室をアトリエにし制作環境を整えるために使う予定です。

福島支援プロジェクト

● 福島支援奨学金

CWAJ が福島県立大学看護学部の学生を対象に奨学金の支給を決めたのは2012年、震災後の混乱の中で同大学の看護学生が大活躍したと知ることがきっかけでした。この7年間で奨学金受給者は通算18名となり、2019年度もさらに2人の奨学生が選ばれました。過去の奨学生の多くは卒業後も被災地域に残って、看護師、助産師、保健師として活躍しています。(2018年度の福島支援奨学生は、p.3をご覧ください)

● 福島アート・プロジェクト

版画家の皆様の支援を受けてCWAJが2014年に始めた福島の子どものためのアートプログラム「あそびじゅつ」。一区切りとなる第5回は、10名の会員が参加して2018年7月27日から29日まで相馬市、須賀川市、福島市で開催しました。

相馬と須賀川のテーマは『挑戦！裏も表もない揺れる絵に』です。子どもたちは正方形の板25枚の両面に、つながりを想像しながら絵を描いたり木片を貼ったりして、5列に並べて吊るします。一日がかりで出来上がった作品は、板が風に揺れ音を立て、絵が動き出すようでした。ボランティアとして参加した2018年度福島支援奨学生の国分和美さんは、将来小児病棟などで生かせる貴重な体験ができたと言っていました。



福島県立美術館では型紙染めの所蔵作品を鑑賞してから、本洪紙にポンチで穴をあけて摺る型絵に挑戦しました。型紙の並べ方、重ね方、色の変化から生まれる作品に、工夫の楽しさを発見しました。



各会場への移動にあたっては、相馬広域こころのケアセンターなごみの大谷廉氏が、2012年にCWAJが同センターに寄贈したパンを運転して大活躍していただきました。

多摩美術大学海老塚耕一教授の熱意あふれるご指導のおかげで、2014年から2018年までの5年間に7つのユニークなプログラムを福島の子どもたちに提供することができました。多摩美術大学とスタッフの皆様にも大変お世話になりました。この企画を通して、須賀川商工会議所青年部、福島県立美術館、相馬児童センター、相馬広域こころのケアセンターなごみ、毎回看護師として手伝ってくださった福島支援奨学生の皆さんと交流を持てたことは、かけがえのない経験となりました。忘れがたい思い出を胸に、今後も何かの形でご縁をつなげていけるよう願っています。

須賀川市商工会議所青年部の主催で、同市で毎年開催されている小中学生の版画コンクール「田善顕彰版画展」。CWAJでは副賞として、田善賞(小中学生各1名)の作品をCWAJ版画展で展示し、受賞者と保護者を会場に招待しています。生き生きとしたその版画は、2018年の会場でも注目を集めていました。

CWAJ 奨学金制度

● 奨学生を支えてつなぐ

CWAJ ネットワーク

1949年に始まったCWAJの学生支援は奨学金へと発展し、現在では奨学生をつなげるプラットフォームとしての役割も果たすようになりました。CWAJ 奨学生たちの最近の近況を、一部ご紹介します。(カッコ内の奨学金の略称については、下の奨学生紹介をご参照ください)

青山学院大学名誉教授の佐野弘子さん(1978 SA)は、新奨学生が紹介される5月のCWAJ 月例昼食会で、自ら企画したジョン・ミルトン国際会議について講演しました。CWAJ の新奨学生に向けては、人文科学の重要性を強調し、留学時代の友人と交流を続けることが将来の財産になるとの言葉を贈りました。

早稲田大学で建築を学んだアルバ・ザマルピデさん(2016 NJG)は4月に博士号を取得し、同校の招聘研究員に任命されました。ベトナムの文化遺産保存計画についての博士論文はヨーロッパでも高く評価され、9月にブカレストで開催された学会でENCATC 研究賞を受賞、近く出版も予定されています。



重度の視覚障害がありながらトーストマスターズ・クラブ東京会長を務める上智大学生、兼子莉李那さん(2017 SVI)は、2月の第12回東京大学ESS 杯争奪英語弁論大会に出場、視覚障害者が携行する白杖が時には健常者と障害者を隔てる「ライン」になると話し、檯上で白杖を折る演出で観客賞を獲得しました。



菅野範子さん(2017 FRS)は修士号を取得後、CRC(臨床研究コーディネーター)として福島県立医科大学附属病院臨床研究センターに勤務しています。森美由紀さん(2017 FRS)も修士号を取得、2019年9月から福島県立医科大学看護学部の助教として後輩の育成にあたります。

廣瀬匠子さん(2017 SA)と本年度奨学生の田山絵里さん(2018 SA)は、米国コロンビア大学に留学中です。このたびCWAJを通して、現地で弁護士として活躍する奈良房永さん(1988 SA)とつながり、CWAJ 奨学生のネットワークがさらに発展しました。

インターネット配信番組の「In Japan: Women at Work」でCWAJの活動が紹介された際に、奨学生を代表して安原理恵さん(2007 SVI)とサウレ・ジョルダグコヴァさん(2017 NJG)が取材を受けました。

東京アメリカンクラブ・ウィメンズ・グループをはじめ多くの皆様のご支援のおかげで、2018年度は9名の学生にCWAJ 奨学金を支給することができました。

2018年度 奨学生



CWAJ 海外留学大学院女子奨学金 (SA)

支給額 300万円

高橋 美佐紀 (たかはし みさき)

留学先：ワーヘンゲン大学修士課程(オランダ王国) 専攻：森林・自然保全学

CWAJ 海外留学文化交流大学院女子奨学金 (SA)

支給額 300万円

田山 絵理 (たやま えり)

留学先：コロンビア大学国際公共政策大学院修士課程(米国) 専攻：国際関係学

CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金 (NJG)

支給額 200万円

張 洋宇 (チョウ ヤンウ)
(中華人民共和国)

在学：東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科修士課程 専攻：アートプロデュース

CWAJ 佐野力奨学金 (NJG)

支給額 200万円

ガニエヴァ、ウミダ
(ウズベキスタン共和国)

在学：名古屋大学大学院医学系研究科臨床医学領域博士課程 専攻：産婦人科

CWAJ 東京アメリカンクラブ・ウィメンズグループ奨学金 (NJG)

支給額 200万円

アザハリ、ジェリリー
(マレーシア)

在学：東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学産婦人科学博士課程 専攻：生殖内分泌

CWAJ 視覚障害学生奨学金 (SVI)

支給額各 150万円

糸野 海生 (いとのかいき)
網本 万里奈 (あみもと まりな)在学：国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科 博士前期課程 専攻：心理・教育学
在学：立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 4年

CWAJ 福島支援奨学金 (FRS)

支給額各 50万円

國分 和美 (こくぶん かずみ)
宗方 彩夏 (むなかた あやか)福島県立医科大学看護学部3年
福島県立医科大学看護学部3年

コミュニティー・プログラム

● 視覚障がい者との交流会 (VVI)

40年以上の歴史をもつ「視覚障がい者との交流会」(VVI)の活動の中心は、四谷の日本盲人職能開発センターで職業訓練の一環として指導している英会話と、筑波大学付属視覚特別支援学校で、日本英語検定を受験する生徒のために行っている英検模擬面接です。日本盲人職能開発センターの英会話は年々人気が高まっており、参加者の職能強化の一助になっています。

CWAJおよびVVIのイベントに関する情報は、日本語ニュースレターとして、メール、点字、拡大コピーで配信しています。2018年には、200人近い視覚障害者に3回のニュースレターを発送しました。

楽しく英語を学びながら異文化に触れてもらうことを目的とした「英会話の集い」(ECG)は、3月に『アメリカ南部を知ろう』、12月に『冬の伝統行事』をテーマに2回開催しました。参加者はCWAJ会員の英語による解説に熱心に耳を傾け、テーマに関連した品物に触れたり、音楽を聴いたり歌ったり、アメリカ南部の名物コーンブレッドやクリスマスのお菓子を食べたりして、異文化体験を楽しみました。ECGは大変人気があり、CWAJ ボランティアを含めた参加者数は、3月が56人、12月は49人におよびました。



● 外国人留学生との交流会 (FSC)

日本で学ぶ留学生を対象としたこの会では、2018年に4回のプログラムを開催しました。4月には防災体験学習施設そなエリア東京の見学、7月は国立劇場での歌舞伎鑑賞教室、10月に横浜市の東光禅寺での座禅、そして11月にはCWAJ現代版画展の鑑賞です。通常、留学生の参加数は平均5~10人ですが、歌舞伎鑑賞は特に人気があり、卒業生を入れて15人が参加しました。

FSCのCWAJボランティアは留学生のメンターの役割も果たし、必要に応じて支援も行っています。



カルチュラル・プログラム

● カルチュラル・プログラム

CWAJカルチュラル・プログラムは、会員のみならず一般の参加者にも開かれた文化的、教育的、社会的なプログラムで、年に2回、原則として英語で行われます。2018年5月21日、鎌倉市材木座海岸にある二つの浄土宗寺院を50名で訪問しました。一番目の蓮乗院は、隣接する光明寺が建立された1243年以前から当地にあったという由緒ある非公開の寺です。住職より歴史についての説明を伺い、1299年に造られた本尊、阿弥陀如来像などの寺宝を拝見するという貴重な体験をしました。次に訪れた浄土宗大本山光明寺では、17世紀に再建された本堂、庭園などを案内していただき、浄土宗についての解説を伺ったのち大広間に移動して、関東で一般客に提供している寺はここだけという本格的精進料理を、説明を聞きながら味わいました。食後はほとんどの参加者が山門に上り、解説付きの内部見学と楼上からの景観を楽しみました。



11月21日には、墨田区亀戸の花王すみだ事業場内にある花王ミュージアムを訪れて、1890年の創業以来、清浄文化の発展に深く関わってきた花王が収集した数々の史料の展示を、英語ガイドによる説明を聞きながら見学しました。入浴、洗濯、掃除など清浄文化の歴史を学んだだけでなく、同社の精神である「よきモノづくり」から生まれた最新の製品の紹介もあり、日々の暮らしに大いに役立つ情報を得ることができました。終了後は近くの老舗店で名物の亀戸大根を使った料理を楽しんだのち、希望者は隣接する亀戸天神などを散策しました。

— CWAJはこんな団体です —

一般社団法人CWAJ (College Women's Association of Japan) は、さまざまな国の女性たちが幅広い交流の中で友情を深めながら、首都圏を中心に教育・文化活動をおこなっているボランティア団体です。1949年に日本人留学生への渡航費援助を目的に発足した小さなグループが、現在では約30カ国から集まった450名の会員を有する会となりました。全員が無償のボランティアとして、毎年版画展やさまざまなイベントを開催し、その純益で奨学金を提供するほか、視覚障害者や帰国児童のための英語クラスなど、楽しみながら教育支援を進めています。活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語でおこないます。CWAJ入会についてのお問合せはこちらへどうぞ。 membership@cwaj.org 日本で会員になり、海外に帰国/転居した方には海外会員の制度があります。CWAJ海外会員についてのお問合せはこちらへどうぞ。 cwajoverseas@cwaj.org

● 月例昼食会

CWAJの月例昼食会は、会員どうしの連絡や親睦の場であると同時に、さまざまなジャンルの第一線で活躍するスピーカーの講演を聴くことのできる、教育・文化プログラムでもあります。ゲストにも公開されており、平均出席者数は約110名です。2018年は、日本が誇る伝統文化の日舞と鼓のパフォーマンスに始まり、著名デザイナーによるファッションショーで締めくくりました。その間、歌舞伎コメンテーターからは歌舞伎のさまざまな演目の面白さを学び、京都の妙心寺退蔵院の副住職からは、日本人の生活が禅といかに深く関わっているかという大変興味深い話を聞きました。ウォールストリートジャーナル統括編集長からメディアの世界で女性が直面する問題やデジタル時代のチャレンジについて、5月のスカラシップ・ランチオンでは元奨学生の英文学名誉教授によるミルトンの解説、国連開発プログラムに関わり30年以上途上国で女性の支援を続けてきた方の体験談、CWAJ版画展の審査員を務めた神奈川県立美術館館長から謎の版画家、藤牧義夫の作品と解説、ドイツ人の元CWAJ会員による、第一次世界大戦時の坂東捕虜収容所とベートーベンの「第九」との関わりと、いずれも知的刺激に満ちた聴きごたえのある講演でした。夏休み前の6月には、広く活躍中のCWAJメンバーの子女、池永夏美さんと松本ゆりさんによるピアノとバイオリンの演奏を楽しみました。



— ご寄付のお願い —

CWAJは年間を通して、CWAJ教育・奨学金プログラムおよび福島支援プロジェクトへのご寄付をお願いしています。皆様からのご支援が、日本と世界の若者たちの勉学の夢をかなえ、福島のコミュニティーに力を与えます。ご寄付のお申込みは下記までお願いいたします。CWAJは、国際交流基金の「特定寄附金制度」を活用して、自国外の大学院で学ぶ女子学生への奨学金の拡充を図っています。この制度を通してのご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは下記までお問い合わせください。 donations@cwaj.org



CWAJ College Women's Association of Japan

一般社団法人CWAJ
CWAJセンター
141-0021 品川区上大崎 2-24-13-703
Tel/Fax 03-3491-2091
<https://cwaj.org/>